【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年9月29日(2023.9.29)

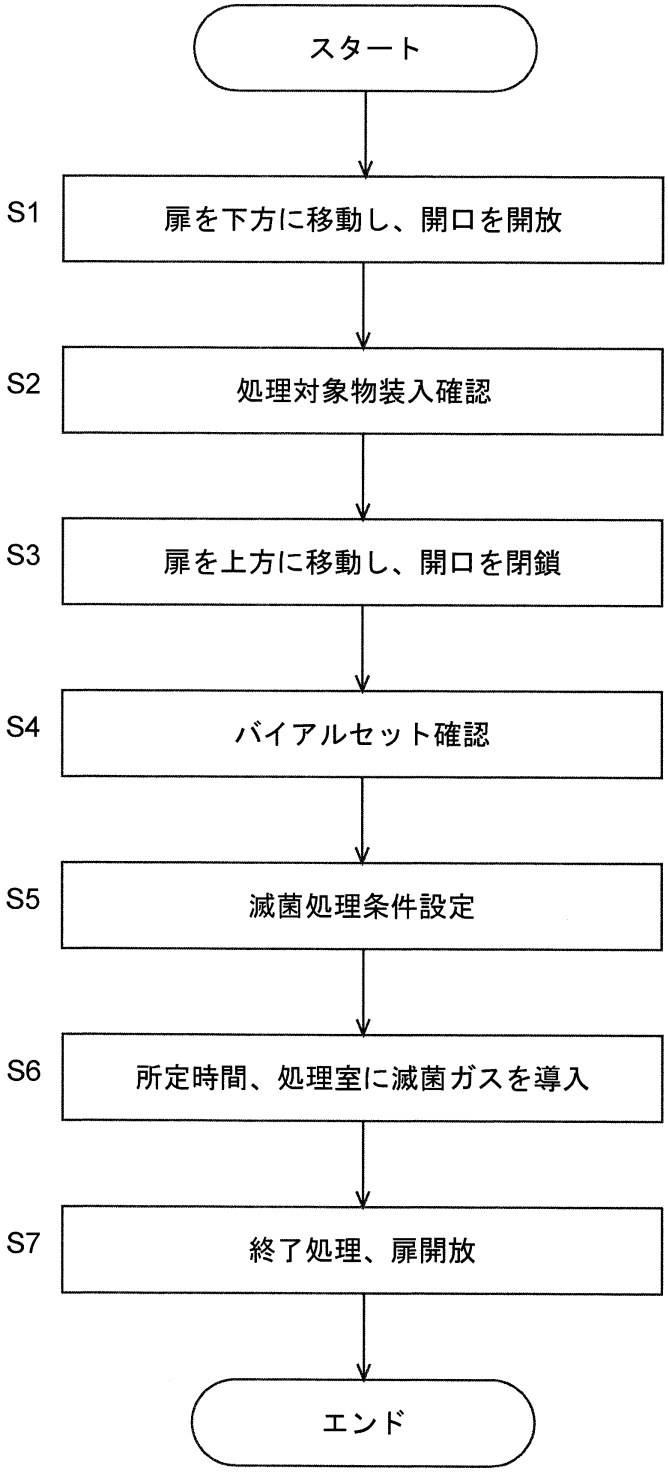
【公開番号】特開2022-65300(P2022-65300A)
【公開日】令和4年4月27日(2022.4.27)
【年通号数】公開公報(特許)2022-076
【出願番号】特願2020-173782(P2020-173782)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｌ　2/20(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｌ　2/20

【手続補正書】
【提出日】令和5年9月21日(2023.9.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
滅菌処理室の開口を閉鎖するための扉であって、両側方にそれぞれ突起を有する扉と、
前記両突起に対応するように前記開口の両側方に設けられた１対のガイド部材であって、それぞれ、前記扉が前記開口の面から離れた位置で前記扉が移動するように前記突起をガイドする主ガイド溝と、前記扉が前記開口の正面にある位置において前記突起を前記主ガイド溝から前記開口の面の方にガイドする副ガイド溝を有するガイド部材と
を備えることを特徴とする滅菌装置。
【請求項２】
前記突起、主ガイド溝及び副ガイド溝が、前記扉の左右上下にそれぞれ設けられている請求項１に記載の滅菌装置。
【請求項３】
前記主ガイド溝が前記開口の面に平行に設けられており、前記副ガイド溝が前記主ガイド溝の端部から前記開口の面の方向に傾斜して延設されている請求項１又は２に記載の滅菌装置。
【請求項４】
前記主ガイド溝と副ガイド溝の接続箇所に丸めが設けられている請求項３に記載の滅菌装置。
【請求項５】
前記突起が前記ガイド部材の主ガイド溝及び副ガイド溝内を転動するローラーである請求項１～４のいずれかに記載の滅菌装置。
【請求項６】
正面壁及び背面壁の双方に前記扉及び前記ガイド部材を有する請求項１～５のいずれかに記載の滅菌装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】

まず、扉で開口を閉鎖するときの動作を説明すると、扉の両側方の突起は両ガイド部材の主ガイド溝にガイドされ、扉は開口の面（開口の周囲線で囲まれる面）から離れた位置で開口の方に移動する。扉が開口の正面に至った時点で、両突起は副ガイド溝によりガイドされ、扉は開口の面に近づき、最終的に開口の面の方に押圧される。このため、開口の周囲に（又は、扉の該開口に対応する箇所の周囲に）シール材が固定されていたとしても、扉は（又は、滅菌処理室の開口の周囲の壁面は）シール材と擦れることがない。

【手続補正３】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図５
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図５】


スタート
S1
扉を下方に移動し、開口を開放
S2
処理対象物装入確認
S3
扉を上方に移動し、開口を閉鎖
S4
バイアルセット確認
S5
滅菌処理条件設定
S6
所定時間、処理室に滅菌ガスを導入
S7
終了処理、扉開放
エンド